

「まもる」

■ エピソード

1

美奈子さんは、3歳の良太さんとよく公園で遊んでいます。公園では、良太さんと同じ3歳の子どもをもつ近所の典子さんといろんな話をします。

美奈子「最近、良太が言うことを聞いてくれないことが多いのよね…」

典子 「そうなのね。うちもそういうときあるわよ。」

美奈子「典子さんのところもそうなのね…」

この前もね、良太があまりに言うことを聞かないものだから、感情がおさえきれなくなって。
怒ったあとは疲れちゃって、泣いている良太をそのまま放っておいたわ。」

典子 「そう…二人ともそんな感じには見えないけど…」

美奈子「…。このままエスカレートしたら、『虐待』なんてことになるのかしら…」



ある日のこと、良太さんがお菓子をほしいと言うので、スーパーのお菓子コーナーへ行きました。

美奈子「お菓子は1つにしようね」

良太 「いや！これもこれもほしい！」

美奈子「いいかげんにしなさい！」

良太さんは泣き出してしまいました。美奈子さんが何度言っても良太さんはぐずるばかりで言うことを聞かず、良太さんは床に座りこんでどんどん大きな声で泣くばかりです。



良太さんの泣き声が大きいかから、周りの人もこちらをチラチラと見ている様子もあったり、こそこそ話している人もいました。

「大変ね。よく泣いているわね～」と、年配の女性が口にしながら、美奈子さんの横を通りすぎていきました。

美奈子「……。良太、いいかげんにしなさい！早く立ちなさい！」。

美奈子さんは、さっきよりも大きな声で良太さんを叱りましたが、それでも立とうとしない良太さんの手を無理矢理引っ張り、立たせようとしてしました。

そこへ、たまたま買い物に来ていた典子さんが美奈子さんのところに近づいてきて、

典子 「あら。美奈子さん。どうしたの？」

美奈子「…。良太が…」



周りからの目もあったため、ひとまずその場を離れようと、典子さんは「いっしょに帰りませんか」と声をかけ、なんとか良太さんをなだめて3人で家の方へ歩いて帰りました。

典子 「大丈夫だった？スーパーで何があったの？」

美奈子「良太が全然言うことを聞いてくれなくて…もういいかげんにしてほしいわ。」

美奈子さんのひとりごと

典子さんといっしょに帰れてよかったわ。
だけど、頭ではわかっていても良太がわがママを言いだすと、
つい怒鳴ってしまう。口で言うばかりじゃ…
どうしたらいいんだろう…



典子さんのひとりごと

美奈子さん、落ち着いてよかった。
でも、かなり興奮している様子だったし、心配だわ。
美奈子さんの気持ちが少しでも楽になればいいんだけど…
これからどう関わっていこうかしら。



話し合いのポイント

1 美奈子さんの気持ちを考えてみましょう。

2 典子さんの気持ちを考えてみましょう。

3 あなたは、子どもが言うことを聞かないとき、どのようにしていますか？
また、子育てに困っている親がいたら、どのようにしますか？